

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年9月24日（月）～平成30年9月30日（日）〔平成30年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.59人と前週（3.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（2.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.56人と前週（2.33人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



高齢者の方を対象としたインフルエンザの定期接種が始まります

川崎市在住の高齢者の方は、平成30年10月1日からインフルエンザの予防接種を一部公費負担で受けることができます。インフルエンザの予防接種は、感染自体や発症を完全に防ぐことはできませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果があります。川崎市においては、平成30年第39週（9月24日～9月30日）の定点当たり報告数は0.62人とまだ流行期ではありませんが、接種後抵抗力がつくまでに2週間程度かかるため、流行前に接種を受けておくことが重要です。

高齢者を対象とした定期のインフルエンザ予防接種

◆対象となる方（次の3つの条件を満たしていること）

- ①住所 川崎市にお住まいの方
- ②年齢 I 接種日に65歳以上の方
II 接種日に60歳～65歳未満の方
・心臓病、腎臓病、呼吸器の機能障害（障害1級程度）のある方
・HIVによる免疫機能障害（障害1級程度）のある方
- ③その他 接種を受けようとする本人が接種を希望していること

接種の際は、住所及び年齢を確認できるもの（健康保険証等）をお持ちください。

◆実施期間と回数

平成30年10月1日～12月31日の間に1回

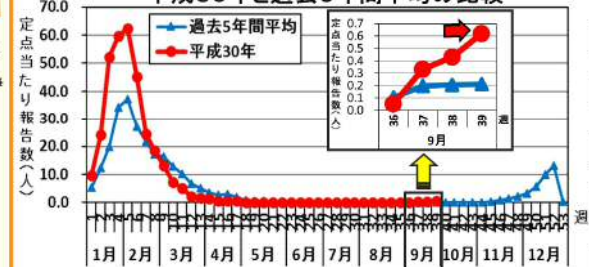
◆接種を受けられる場所

川崎市予防接種個別協力医療機関
市が指定した市内約600か所の医療機関です。

◆自己負担金（接種を受けた医療機関にお支払いください。）

2,300円

川崎市におけるインフルエンザ発生状況
—平成30年と過去5年間平均の比較—



今シーズンのワクチンについて

今シーズンのワクチンは、A型2種類、B型2種類の計4種類が含まれています。

- A/H1N1亜型（2009年以降の流行株）
- A/H3N2亜型（いわゆるA香港型）
- B型（山形系統）
- B型（ビクトリア系統）

※A/H3N2亜型及びB型（ビクトリア系統）のワクチン株は昨年度と異なります。

